

# 学修者の能動性を促す 保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業の枠組み

小栗祐子<sup>1</sup>・横山真理<sup>2</sup>

(1: 東海学院大学人間関係学部 2: 東海学園大学教育学部)

## 要 約

本研究の目的は、保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのかについて示唆を得ることである。そのために、音楽授業においてどのような授業の到達目標が設定され、どのような教科書が使用され、どのような学修評価がなされてきたのか、2021年度に公開されている音楽授業のシラバスを調査し、シラバスから捕捉した旧来の音楽授業の設計上の特徴と問題点を明らかにした。結論は次のとおりである。1) 目標と評価の一体化: シラバスを通して教師と学生が共有する授業の到達目標と学修評価の方法の具体を一对のものとして捉える必要がある。2) 知識理解、技能、学修に向かう態度の3つの観点を関連付けながら、授業の到達目標と学修評価の方法を設定する。3) 保育実践を想定した音楽経験の文脈の中で学修することを前提に、音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技術の修得が到達目標として設定する。4) 学修に向かう態度のような情意的な目標に対する評価方法の具体を明示する。5) 以上のようにして一体的に捉えた到達目標と評価の枠組みの中で教科書を位置付け、保育者養成教育として育成すべき力を養う上で、どのような教科書や参考書をどのように使用するのか明示する。

キーワード: 保育者養成教育, 「対話による能動モデル」, 音楽的な知識や技能

## 1. はじめに

本研究における「保育者」とは、「制度上規定されている幼稚園教諭免許や保育士資格を取得した者の総称」横山(2019)を指す。日本の保育者養成教育は、幼稚園教諭免許(学校教育法に規定)または保育士資格(児童福祉法に規定)の取得を目的に設置されている保育者養成施設(「養成施設」と略記)において行われており、保育者養成カリキュラムにおける保育内容の「領域に関する専門的事項」を扱う科目として、音楽的な知識や技能の修得を目標とした授業がある。科目名称は「養成施設」によって異なる。本稿では、「養成施設」において開講されている保育内容の「領域に関する専門的事項」を扱う科目である、音楽的な知識や技能の修得を目標とした授業を「音楽授業」と称する。

音楽授業では、現在に至るまでピアノ演奏や「子どもの歌」(保育・幼児教育の場で活用されているわらべうた、童謡、文部省唱歌、流行歌など)の弾き歌いに必要な知識や演奏技能の修得を目標に、教師が音楽的な知識や技能を一方的に学生に伝授する教育方法が一般的である。この教育方法の最も重大な問題点は、学生が一方的に知識

や技能を伝授される受動的な存在になってしまう点にある。そこで本研究では以上に説明したような教育方法による音楽授業を、「伝授による受動モデルの音楽授業」と称する(図1)。

旧来の「伝授による受動モデルの音楽授業」にある教師による一方的な伝授型の教育方法については、2000年代以降、「教授パラダイムから学習パラダイムへの転換」、あるいは「アクティブラーニング」の提唱の中で克服されるべき問題として取り上げられ続けてきた(溝上2014)。平成24年に出された中央教育審議会答申の中でも「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換」(中央教育審議会2012)が打ち出されているが、音楽授業は旧態依然の傾向が強いままである。したがって、音楽に関する知識や技能の修得を目標として掲げる音楽授業においても、旧来のように教師が音楽的な知識や技能を一方的に学生に伝授するのではなく、学生の能動性が発揮され

るような授業実践を行うことが必要ではないか。

以上のような問題意識に立って授業研究を行っている先行研究として、小栗(2018; 2019; 2020)がある。小栗の一連の研究では、教師と学生や学生同士が音楽についての感じ方や考え方を活発に伝え合い演奏の工夫について協働的に探究する過程を重視して、「子どもの歌」を教材としたピアノの弾き歌いの授業やグループピアノレッスンを実験的に行い、省察が重ねられている。その結果、言葉とのやり取りに留まらず、演奏や身振りなどイメージを表現する媒体を組み合わせることで共感的なコミュニケーションが促進され、演奏の工夫について協働的に探究する過程が生まれるという示唆が得られている。横山(2018)も自ら実践した音楽授業の記録を分析し、保育実践を想定した音楽活動の文脈の中で音楽的な知識を理解することができるような学修経験と指導の過程が必要であると洞察している。以上に紹介した先行研究の知見から、教師による一方的な知識・技能の伝授に頼らない音楽授業を実践する際には、第一に言葉、演奏、身振りなどを組み合わせながら教師と学生が双方向的に対話して共感的なコミュニケーションをとり音楽表現の仕方について協働的に探究する過程、第二に保育実践を想定した音楽経験の文脈の中で音楽的な知識について理解できるような授業の展開が、旧来の「伝授による受動モデルの音楽授業」を克服し学生の能動的な学修を実現するための要点として重要ではないかと考える。

そこで本研究では、以上の要点をふまえて、学生が保育実践を想定した音楽経験の文脈の中で学び、教師との対話を通して問いをもち協働的に音楽表現を探究しその過程で音楽的な知識や技能を修得していくことを重視するような教育方法による音楽授業を「対話による能動モデルの音楽授業」と称す(図2)。それでは、保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのだろうか。その手がかりを、本研究によって得たい。

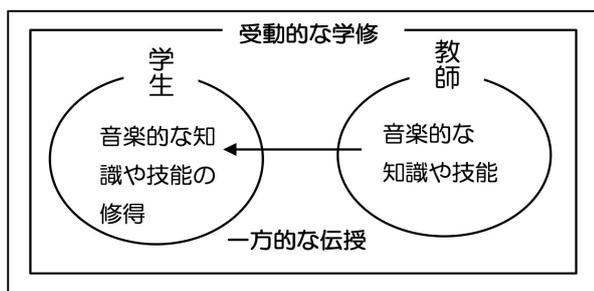


図1 「伝授による受動モデルの音楽授業」

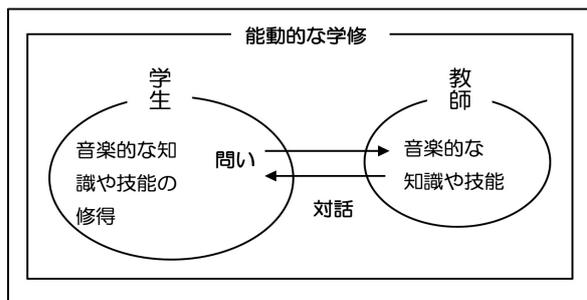


図2 「対話による能動モデルの音楽授業」

## 2. 研究の目的

以上より本研究では、音楽授業においてどのような授業の到達目標が設定され、どのような教科書が使用され、どのような学修評価がなされてきたのか、2021年度に公開されている音楽授業のシラバスを調査し、シラバスから把握した旧来の音楽授業の設計上の特徴と問題点を明らかにする。それにより、保育者養成教育としての「対話による能動モデルの音楽授業」をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのかについて示唆を得ることを目的とする。「シラバス」とは、「学校教育において、教えるべき目標、内容、方法、生徒の学習方法、指導計画、評価などの概要を示したもの」(的場 2002)と定義される。本研究でシラバスに着目した理由は、大学設置基準では、授業計画が詳細に記述されたシラバスを学生をはじめ広く社会に情報公開することが明示されており、その点で「養成施設」で開講されている各科目のシラバスに記載された情報は極めて信頼性が高いこと、授業の設計図とも言えるべきシラバスを参照することによって、これまで行われてきた音楽授業の傾向や問題点を捕捉することができるのではないかと考えたからである。

## 3. 研究の方法

研究の方法は、以下のとおりである。

- 1) 東海三県にある「養成施設」の合計26施設がホームページ上で公開している2021年度開講の音楽授業76科目のシラバスを収集し、到達目標、学修評価の方法、教科書に関する情報を抽出する。
- 2) 1)で抽出した情報を量的な傾向として捕捉し、全体的な特徴と「対話による能動モデルの音楽授業」の枠組みからみた音楽授業の問題点を明らかにする。
- 3) 以上をふまえて、保育者養成教育としての「対話による能動モデル音楽授業」をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのかについて示唆を得る。

## 4. シラバスの調査結果

### (1) 到達目標

シラバスで示されている各科目における到達目標の一覧は、論文末資料1のとおりである。76科目すべてにおいて、音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技能の修得が目標として挙げられている。記載例として、「保育や音楽教育に必要な基礎的なピアノ演奏技能や子どもの歌などの弾き歌いの基礎力を習得する」(資料1 No.5)、「保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を身につけることができる。保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を、実際の保育実践と結び付けてとらえることができる。保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を、実際の保育の中で展開できる」(資料1 No.28)がある。

次に、保育実践を想定した音楽経験の文脈の中で学修することを前提に音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技能の修得が到達目標として設定されているかについて調べると、全体の72%のシラバスの到達目標が該当している。しかし、音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技能の修得が保育実践を想定した音楽経験の文脈の中でどのように位置付けられているのかわからないシラバスも28%ある(図3)。記載例として、「基礎的なピアノの演奏技術を身に付ける(オリジナルバイエル進行表78番まで)。基礎的な音楽理論を理解する。コードを用いての簡単な子どもの歌の弾き歌いができるようになる」(資料1 No.30)、「1) 読譜法、簡単なコード伴奏、発声法、歌唱法を学び、弾き歌いができること、2) ピアノでの豊かな音楽表現の技術習得(ピアノ初心者バイエル60番修了)を目標とする」(資料1 No.54)がある。

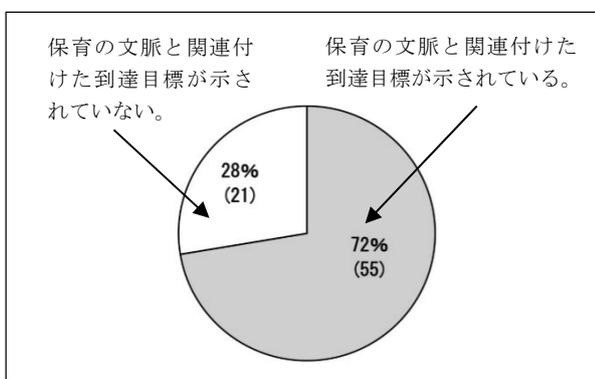


図3 授業の到達目標における保育実践を想定した音楽経験の文脈の有無

### (2) 学修評価の方法

シラバスで示されている各科目における学修評価の一覧は、論文末資料2のとおりである。76科目のシラバスに示された学修評価の方法を調べてみると、評価方法が開示されているシラバスは、全体の84%である。一方で、評価方法が開示されていないシラバスも16%ある。評価方法が開示されていないシラバスの記載例として、「技術力(40%)、表現力(60%)」(資料2 No.11)、「平常点、取り組み方を総合的に判断する。」(資料2 No.38)がある。

評価方法の具体としては、実技テストや筆記テストを行ったり、学修シートや課題レポートを提出させたりする方法が採られている。①演奏技能を評価するために実技テストを実施している割合は、全体の85%を占める。また、②知識の理解度を評価するために筆記テストを実施している割合は、全体の30%である。他に、③おそらく知識の理解度や学修に向かう姿勢を評価するために学修シートや課題レポートなどの記述物を提出させている割合は、全体の33%である(図4)。以下に示すように、①②③のいずれか1種類実施しているところもあれば、併用しているところもある。具体的には、①と③の併用が23%、①単独が25%、①②③の併用が19%、①②の併用が17%、③単独が3%である(図5)。

一方で、学修に向かう姿勢のような情意目標をどのように評価しているのかという具体的な方法が開示されていない科目は、全体の80%を占めている(図6)。記載例として、「学習意欲、目標到達度、積極性」(資料4 No.21)、「意欲・受講態度・取り組みの姿勢」(資料4 No.45)がある。

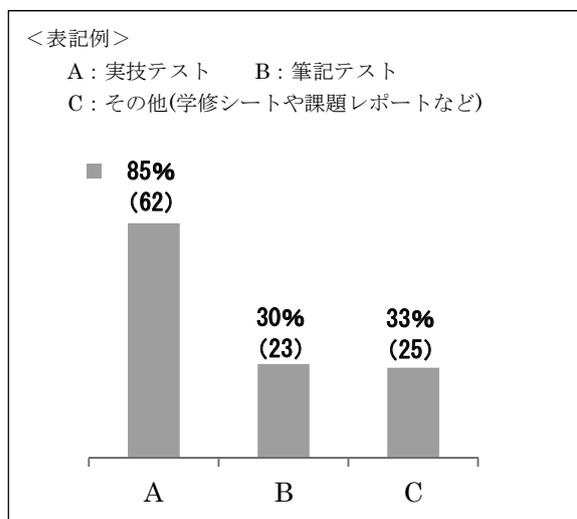


図4 評価方法の具体(述べ数)



た一方で、知識の理解度を評価するために筆記テストを実施していた割合は30%であり、予想に反して少なかった。また、演奏技能を評価するための実技テストと知識の理解度を評価するための筆記テストを併用していた割合も予想に反して少なく36%にとどまっていた。逆に予想に反して多かったのが、「学習意欲、目標到達度、積極性」や「意欲・受講態度・取り組みの姿勢」といった文言に表れていたように、約7割のシラバスが学修に向かう「姿勢」「態度」といった情意的な目標に対する評価について記載していることであった。この調査結果は意外であった。なぜなら、設定されていた科目としての到達目標には、音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技能の修得は明確にされていたものの、学修に向かう姿勢・態度といった情意的な到達目標を設定していたシラバスは10%ほどしかみられなかったからである。しかも、情意的な目標に対する評価については、どのような評価方法によって判断するのかが明確に示されていないければ、教師の主観や独断に頼った評価にならざるを得ない点で問題があるが、「姿勢」や「態度」をどのような根拠資料によって評価するのかという評価方法の具体が開示されていないシラバスが80%を占めるということも明らかになった。以上より、ピアノの演奏や弾き歌いの技能の評価は実技テストの方法によって当たり前のように行われてきたのだが、音楽的な知識の理解度の評価については実技テストほどにはなされておらず、逆に「態度」面の評価を、評価方法を明示しないまま計画しているという特徴が浮き彫りになった。

### (3) 教科書

教科書については、子どもの歌の楽譜集の使用の割合が77%、ピアノ教則本のようなピアノの演奏スキルを身につけるための楽譜集の使用の割合が60%であった。両者の組み合わせの割合は、47%であった。このことから、子どもの歌の楽譜を使用してピアノ演奏や弾き歌いの技能を修得させるという傾向が強く、保育者養成教育として位置付けられている「音楽授業」の枠組みから言えば当然のことだろう。一方で、ピアノの演奏技能を身につけるための楽譜集の使用の割合も多く見られ、保育者が身につける基礎的な技能としてピアノの演奏技能が重要であり、そのような技能は手指の操作的なトレーニングの継続によって身につくものだ、という教師の考えが強く反映している可能性がある。このことから、保育者養成教育としての「音楽授業」である以上、保育の文脈で

の学びは欠かせないが、子どもの歌の楽譜集を使用する一方で、手指の操作的なトレーニングのためのピアノ教則本の使用も重視されている。保育者養成教育としてのピアノ演奏や弾き歌いにとって必要な技能とはどのような技能なのか、という点の教師の考えがわかりにくいという特徴もみられた。

## 6. まとめと今後の課題

本研究の目的は、保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのかについて示唆を得ることであった。そのために、音楽授業においてどのような授業の到達目標が設定され、どのような教科書が使用され、どのような学修評価がなされてきたのか、2021年度に公開されている音楽授業のシラバスを調査し、シラバスから捕捉した旧来の音楽授業の設計上の特徴と問題点を明らかにした。それをふまえて、保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業をどのように設計すれば、学生が能動的に学び音楽的な知識や技能を身につけていくことができるのかについて得られた示唆を、以下の4点にまとめる。

- 1) 目標と評価の一体化: シラバスを通して教師と学生が共有する授業の到達目標と学修評価の方法の具体を一对のものとして捉える必要がある。
- 2) 知識理解、技能、学修に向かう態度の3つの観点に関連付けながら、授業の到達目標と学修評価の方法を設定する。
- 3) 保育実践を想定した音楽経験の文脈の中で学修することを前提に、音楽の基礎的な知識及びピアノ演奏や弾き歌いの技能の修得が到達目標として設定する。
- 4) 学修に向かう態度のような情意的な目標に対する評価方法の具体を明示する。
- 5) 以上のようにして一体的な捉えた到達目標と評価の枠組みの中で教科書を位置付け、保育者養成教育として育成すべき力を養う上で、どのような教科書や参考書をどのように使用するのか明示する。

最後に、今後の研究課題について述べる。

一つ目は、保育者養成教育としての音楽授業において学生が修得すべき音楽的な知識や技能、学修に向かう態度の具体について、改めて理論的に検討することである。

二つ目は、メタ認知能力や思考力や協働性のような汎用的能力の位置付けについて、改めてシラバスを調査したり理論的に検討したりすることである。この問題につ

いては、今回取り上げることができなかったのだが、本来的にはこの汎用的能力の育成こそが能動的な学修を通して育成すべき重要な資質・能力の構成要素に位置づいている。

三つ目は、理論的検討と並行して「対話による能動モデルの音楽授業」の指導計画を立てて実験的に実践し、それを積み重ねながら授業研究を進めることである。

## 付記

1. 本研究は、一般社団法人全国保育士養成協議会中部ブロック協議会ブロック研究助成「保育学生の主体的・対話的で深い学びを実現する『子どもの歌』を教材とした弾き歌い授業の研究」(2020年度)を受けている。
2. 本稿は、令和3年度保育学会全国大会における口頭発表の内容をふまえて執筆した。
3. 執筆に当たっては、1.はじめに、2.研究の目的、3.研究の方法、を横山が執筆し、4.シラバスの調査結果、5.調査結果に基づく分析、6.まとめと今後の課題、を小栗が執筆した。内容については両者の協議による。

## 注

- 1) 指定保育士養成施設一覧 (<https://www.mhlw.go.jp/content/000526901.pdf>) より、愛知県・三重県・岐阜県の指定保育士養成施設 26 校を取り上げた。
- 2) 各教科書教材についての出典は、別紙資料 1 に示している。

## 引用・参考文献

- 横山真理(2019)「保育内容領域『表現』の授業における学生の気付きを促す『音の散歩道づくり』の教材性」東海学院大学年報 第4号, p.64
- 溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- 中央教育審議会(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」 p.9
- 小栗祐子(2018)「グループレッスンにおける学生Aの変容過程—保育者養成課程での実践を通して—」東海学院大学紀要第12号, pp.63-72
- 小栗祐子(2019)『『ピアノ弾き歌い』授業におけるワークシートの機能—保育者養成課程での実践分析を通して—』東海学院大学紀要第13号, pp.115-122
- 小栗祐子(2020)「保育者養成課程での『対話型ピアノレッス

ン』における知識・技能の構成過程に関する一考察」東海学院大学年報第5号, pp.51-58

横山真理(2018)「保育内容の指導法『表現』の授業における学生の気付きを促す学習環境の構成要素・身近な素材による音遊びの授業実践記録の分析を通して—」東海学院大学研究年報3, pp.49-59

の場正美(2002)「シラバス」安彦忠彦他編『新版 現代学校教育大事典』ぎょうせい, pp.139-140

## FA Framework for Dialog-Based Music Lessons to Promote Learners' Activeness as a training education for Teachers in Nursery and Kindergarten

OGURI Yuko, YOKOYAMA Mari

資料1 76科目のシラバスにおいて設定されている授業の到達目標一覧

科目番号	授業の到達目標	保育の文脈の理解
1	保育者に必要な音楽理論の基礎を理解する。保育者に必要なピアノや弾き歌いの基礎技術を習得する。コード法を理解し、簡単なアレンジでの演奏を習得する。	○
2	音楽演習Ⅰで学んだ基本的な音楽理論やピアノ/弾き歌いの基礎技術を受け、保育者として必要な音楽活動の実践力を身に付ける。弾き歌いのレパートリーを増やす	○
3	音楽演習Ⅱを受けて、引き続き幼稚園・保育園で歌う音楽を通して音楽基礎能力(読譜・視唱・音楽理論)を学び、保育者として必要な音楽技術を学修する。また、ピアノ/演奏法、歌い弾きの歌唱法・発声法・ピアノ/伴奏法・コード法を学修し、保育者として必要な音楽活動の実践力を身に付ける。	○
4	音楽演習Ⅲを受けて、引き続き幼稚園・保育園で歌う音楽を通して音楽基礎能力(読譜・視唱・音楽理論)を学び、保育者として必要な音楽技術を学修する。また、ピアノ/演奏法、歌い弾きの歌唱法・発声法・ピアノ/伴奏法・コード法を学修し、保育者として必要な音楽活動の実践力を身に付ける。	○
5	・保育や音楽教育に必要な基礎的なピアノ/演奏技術や子どもの歌などの弾き歌いの基礎力を習得する。・保育や音楽教育で必要な基礎的な音楽理論を理解する。	○
6	・保育や音楽教育に必要なピアノ/子どもの歌などの弾き歌いの演奏技術を習得する。・教科書等に習得した基礎的な音楽表現や音楽理論を用いて、保育や教育の場で音楽表現活動を展開するための力を身に付ける。	○
7	保育士、幼稚園教諭に必要な音楽の基礎技術を修得する。読譜力を身に付ける。③初心者には基礎技術を習得し、経験者には更なる技術や豊かな表現力を身に付ける。	○
8	音楽Ⅰを修得し、更に保育士・教諭に必要な音楽の基礎技術を履く。童謡の弾き歌いを通し、表現力や演奏技術を高める。個々の音楽レベルに応じた個人レッスンを主軸に課題曲に取り組み	○
9	音楽Ⅱを修得し、更に保育士・幼稚園教諭に必要な音楽の基礎技術を向上を図る。童謡の弾き歌いを通し、表現力や演奏技術を高める。個々の音楽レベルに応じた個人レッスンを主軸に課題曲に取り組み	○
10	・心身の健康に確保、職業人として果たすべき役割を実現するため、鍵盤楽器の基礎的な表現技術の習得を通して、日々向上心を持って努力できる姿勢を培うことができる。・子どもと保護者への理解を深め、適切な支援をする力量と資質を有するために、保育の専門家として創造性を養い、子どもの表現を導き出す技能を培うことができる。	○
11	・心身の健康に確保、職業人として果たすべき役割を実現するため、鍵盤楽器の基礎的な表現技術の習得を通して、日々向上心を持って努力できる姿勢を培うことができる。・子どもと保護者への理解を深め、適切な支援をする力量と資質を有するために、保育の専門家として創造性を養い、子どもの表現を導き出す弾き歌いの技能を培うことができる。	○
12	倫理観に裏付けられた教育・保育観を持ち、音楽全般の基礎知識を学びながら演奏技術の修得に主体的・積極的に取り組むことができる。実践試験では、全員がバイエル終了以上の演奏技術に達成することを目標とする。また、人前で音楽表現することへの自信を確実に身につけていくことで、教育・保育の専門職として必要とされる音楽実践力の基礎を身に付ける。	○
13	歌いながらピアノを演奏する弾き歌いの技術を習得する。【1.に対応】 弾き歌い曲のレパートリーを広げると同時に、保育・教育現場で必要とされる技術・表現力を習得する。【2.と6.に対応】 子どもたちとの関わりをイメージし、ピアノ/実技の技術を活かすことができる。【6.に対応】	○
14	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し、説明することができる(知識・理解)。 音楽の楽しさを表現することができる(思考・判断・表現)。 保育におけるピアノ/演奏技術の基本を身に付ける 理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる(関心・意欲・態度)。	○
15	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し、説明することができる(知識・理解)。 幅広い音楽ジャンルの曲を理解し、音楽の楽しさを表現しそれを人に伝えることができる(思考・判断・表現)。 保育におけるピアノ/演奏技術の基礎から応用まで身に付ける(技能)。 理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性を持ち、積極的に課題に取り組むことができる(関心・意欲・態度)。	○
16	子どもの歌を通して表現活動の意義を理解し、音楽の基礎リズム、簡単な伴奏法を知る(知識・理解)。さまざまな音楽ジャンルの子どもに魅れ、表現することができる(思考・判断・表現)。 子どもの歌を様々な伴奏法で表現することができる(技能)。理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもと、積極的に課題に取り組むことができる(関心・意欲・態度)。	○
17	曲に合わせた伴奏の方法を理解し、応用することができる。音楽を活用した様々な表現活動の内容や方法を理解する(知識・理解)。様々な音楽ジャンルの子どもに魅れ、表現し、現場での即興力となるよう努める。保育の様々な場面や環境に合わせた表現活動を行うことができる(思考・判断・表現)。様々な方法を用いて音楽を活用した表現活動を実践することができる(技能)。理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもと、積極的に課題に取り組むことができる(関心・意欲・態度)。	○
18	バイエル教本(No.104まで)の修了、および子どもの歌弾き歌い(別紙、本学指定30曲から)を学修し、着実に自分の「モノ」になるように努力する。また、マーチ(進行曲集)も採用試験の課題や現場でよく取り上げられるため、他の課題と並行して可能な限り多くの曲を学修すること。また、楽典については読譜のために必要な最小限の音楽知識を身に付け、現場へ出てからも自分自身の力で作品を正しく解釈し、子どもたちに指導できるようにすること。	×
19	ピアノを弾くことだけでなく、歌うことへの意欲を高める。子どもは文字ではなく、視覚や聴覚情報を頼りに歌を覚えていく。そのため、保育者が「うた」の詩(詞)をよく読み意味を理解し、その背景を学び、どのように歌を伝えていくのか、15-20曲の弾き歌いレパートリーを持ち、幅広い表現方法のあり方について実践的に学ぶ。	○
20	保育者に必要な「声楽アンサンブル(歌唱)」を中心に授業を進め、独唱・二重唱・三重唱などのあらゆる形態を想定し、無理のない発声による方法を修得する。また、弾き歌いも引き続き学修しレパートリーを増やす。	○
21	幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ/演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出せるようになる。ピアノ/演奏の初心者には、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲。既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。	○
22	幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ/演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出せるようになる。ピアノ/演奏の初心者には、バイエル80番程度と、同程度までの楽曲。既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、音階と音程の理解までとする。	○
23	音楽基礎理論の知識とそれを活かした表現活動の実践方法。更にピアノ/奏法に関する基礎的な知識と技能を習得する。ピアノ/初学者はバイエル80番程度、既修者は各々の課題に合わせた楽曲を演奏できるようにする。	×
24	音楽基礎理論とそれを活かした表現活動の実践方法。更にピアノ/奏法及び幼児歌曲の弾き歌いに関する知識と技能を習得する。ピアノ/初学者はバイエル100番程度及び幼児歌曲曲、既修者は各々の課題に沿った楽曲及び幼児歌曲5曲以上を演奏できるようにする。	×
25	学生自身が音楽をより好きになること、歌詞や曲の構成を理解し表現豊かな演奏を目指す。また幼・保・小での実践に活かせる音楽能力の育成と実践力と共に幅広い創造力及び感性の育成を目標とする。任意の弾き歌い曲8曲、コード譜2曲以上を習得を目標とする。	○

26	学生自身が音楽をより好きになること、歌詞や曲の構成を理解し表現豊かな演奏を目指す。また幼・保・小での実践に活かせる音楽能力の育成と実践力と共に幅広い創造力及び感性の育成を目標とする。任意の弾き歌い曲8曲、コード譜2曲以上の習得を目標とする。	○
27	ピアノで「こどものうた」の両手弾き歌いができる。「こどものうた」に親しみ、充実した歌唱ができる。音楽活動に必要とされる、正しい歌唱ができる。	○
28	保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を身につけることができる。保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を、実際の保育実践と結び付けてとらえることができる。保育における音楽実践に関する基礎的な音楽理論と技能を、実際の保育の中で展開できる。	○
29	保育における、歌・ピアノなどの音楽表現に関わる基礎的な知識と技術を、身につけることが出来る。保育における、歌・ピアノなどの音楽表現活動実践方法に関する理論を、実際の保育と結びつけてとらえることが出来る。保育における、歌・ピアノなどの音楽表現活動実践に求められる専門的な技能を、身につけることが出来る。	○
30	基礎的なピアノの演奏技術を身に付ける。(オリジナルバイエル進行表78番まで) 基礎的な音楽理論を理解する。コードを用いた簡単な子どもの歌の弾き歌いができるようになる。	○
31	基礎的なピアノの演奏技術を習得する。(オリジナルバイエル進行表98番まで) 保育における歌唱の重要性を学び、基礎的な発声法を習得する。 ピアノのレベルに応じた子どもの歌の弾き歌いができるようになる。	○
32	ピアノの進度レベルに応じた子どもの歌の弾き歌いレパートリーを身に付ける。コード・ネームに関する基礎的な知識を理解し、簡単なコード伴奏ができる。移調に関する基礎的な理論を理解し、簡単な移調ができる。	×
33	子どもとの歌唱活動を想定した弾き歌いができる。 コード伴奏を用いた簡単な移調ができる。鍵盤ハーモニカの奏法を身に付ける。 基本的な指揮法を理解し、アンサンブルなどの指揮に活用することができる。	○
34	子どもとともに、子どもの心の発達を育む楽しい音楽活動ができるように、音楽の決まりごと(楽典)を理解し、「音符を正しく読む力」「音を聴き分ける力」等、実際に歌ったり楽器を演奏したりする際に活かすことのできる知識を身に付け、それを基に基礎的な実践力を培う。また、学んだ音楽の技術や知識を基に子どもと豊かな音遊び、音楽活動ができるよう、グループ発表等を通して積極的にアクティブラーニングを行う。	○
35	子どもとの歌を多く知り、自らもそれらを奏し、子どもと共に歌ったりピアノ/伴奏したりすることが自然にできる実践力をつける。具体的には、明確な発音で語るように歌う、振り付けしながら歌う、ピアノ/伴奏を弾きながら歌う場合の発声や表情の注意点を体得する、子どもの歌の伴奏や弾き歌いに相応しいピアノ/演奏法を身に付ける。また、各回の課題を受け身にこたえず、常にアクティブラーニングの姿勢で取り組むことを習慣とし、子どもと共に音楽することを通して子どもの心の発達に寄り添い、感性を育み得る音楽活動が展開できるように研鑽を積む。	○
36	子どもの発達過程を理解し、子どもの生活と遊びに必要な音楽の習得を目指す。また、自然や生活の中にあふれる音に親しむことで、豊かな感性を育む表現活動に必要な知識及び技能の習得を目指す。 ◆知識：理解の領域:読譜(楽譜を読むこと)に必要な楽典の知識を身に付け、幼児教育現場に必要な音楽能力について、理解する。園生活に必要な生活のうた、季節のうたを知る。◆技能の領域:教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ソルフェージュ、ピアノ/演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ/伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。◆態度・志向性の領域:保育者として、子どもと音楽的な関わりができるようになる。	○
37	◆知識：理解の領域:2年次での幼稚園教育実習に向けて、ピアノの弾き歌いができるよう、コードネーム伴奏、読譜などを身に付ける。 ◆技能の領域:教育保育現場で必要不可欠な音楽の技術・技能を身につけるため、ピアノ/演奏の方法、子どもの歌の歌い方、ピアノ/伴奏による弾き歌い等の技術を習得する。◆態度・志向性の領域:子どもと音楽を通してかかわる方法について、自分らしい保育観を持つ。	○
38	乳幼児から学童期までの子どもを対象とした音楽実践は、歌や楽器活動が中心である。日本の保育・教育の指導者の音楽活動はピアノを主とした伴奏法である。今まで培ってきたピアノ/演奏技術と土台に、より実践的なコードネームや和音に関する知識を習得する。さらに創作伴奏・アンサンブル、子どもの何気ない歌声とに即興なメロディーをセンサーサイザーなどの電子楽器を利用して録音することも習得する。具体的には、毎週の課題として、現代の幼児や児童の歌や昔から歌い継がれた歌や小学校学習指導要領共通教材の歌等のレパートリーを広げながら簡単な和音伴奏や簡単な伴奏を学習する。またいろいろな楽器を扱い幼稚園・保育所・小学校の音楽活動に慣れる。小学校教育における鑑賞教育の高音のピアノ/演奏法も併せて学んでいく。	○
39	保育現場で必要とされる、基礎的なピアノ/技術及び伴奏・弾き歌いの習得を目指す。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。	○
40	保育現場で必要とされる、基礎的なピアノ/技術及び伴奏・弾き歌いの習得ができる。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。	○
41	童謡曲弾き歌い、行進曲等のレパートリーを増やすと共に子どもの年齢に応じた分かり易い表現力を身につけることができる。	×
42	幼児の音楽実践に必要な弾き歌いのレパートリーを多く身に付け、保育の現場で自信を持って音楽表現を行うことができる。	○
43	幼児教育に必要な、音楽実践のスキルと応用力を身につけ、心の豊かな子どもを育てることの出来る保育者となる力を身につけることができる。	○
44	・音楽の基礎的な理論を理解し、正しく、記憶を行うことができる。・子どもの歌を、無理のない明るい発声で歌唱表現できる。・音楽理論や作曲知識を生かし、初歩的なピアノ/曲を、正しいタッチ、指づかいで感性的に演奏できる。・簡単な子どもの歌のピアノ/伴奏を行うことができる。	○

学修者の能動性を促す保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業の枠組み

45	・音楽1で学習したことを生かし、さらに技能を高めるための課題に取り組み、ピアノでは、表現を重視した応用課題を学習し、子どもの表現活動を支える演奏を目指す。子どもの歌の伴奏及び弾き歌いでは、子どもが歌いやすい伴奏や子どもの手本となる歌唱とはどうあるべきかを考え、的確な音楽的援助をすることのできる技術を身につける。 今後の実習を視野に入れ、自信を持って演奏できるレパートリーを増やす。	0
46	音楽実践に関する基本的技能（弾き歌いを含む）を習得する。	X
47	音楽指導に関する発展的技能（弾き歌いを含む）を習得する。	X
48	基本的な楽譜の読譜力を身につける。また、簡易伴奏のついで重譜の弾き歌いができるようになる。	X
49	基本的な楽譜の読譜力を身につける。また、簡易伴奏のついで重譜の弾き歌いができるようになる。	X
50	最低バイエル3番まで弾けるようになる	X
51	最低限バイエル終了程度の技術力を身につける	X
52	アンサンブルや合唱など様々な形態による音楽体験を通して保育士、幼稚園教諭として保育の中で様々な音楽表現活動を行うために必要な知識および技能の習得を目指す。	0
53	これまでの基礎技能の学習内容を踏まえて音楽的イメージを表現する技能の習得を目指す自己の課題を理解し人ともにも表現する機会を通して技能の幅を広げる	X
54	1) 読譜法、簡単なコード伴奏、発声法、歌唱法を学び、弾き歌いができること、 2) ピアノでの豊かな音楽表現の技術習得（ピアノ/初心者バイエル60番修了）を目標とする。	X
55	1. ソルフェージュ、発声法、歌唱の技術の向上 2. 本件楽譜から簡易伴奏を即興的に演奏する技術 3. 弾き歌いにおける表現力の向上 4. より高度なピアノ/演奏技術の習得(初心者においてもバイエル80番修了)	X
56	1) 簡易伴奏をアレンジして演奏する技術の向上 2) ソルフェージュ、リトミックによる基礎力を生かした弾き歌いの表現力の向上、 3) ピアノ/演奏のより高度な技術の習得、を目指す。課題設定は各自のレベルにあわせて行うが、初心者もバイエル修了程度を目標とする。	X
57	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを多様に展開するために必要な知識や技術を習得する。2. 音楽表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。	0
58	ピアノ実習を通して演奏力レベルアップを目指すと共に、応用力を身につけるために簡単な伴奏付けも実施する。音楽実習では発声、読譜トレーニングを継続し、現場で歌われる曲（秋と冬をテーマにした曲）も取り上げる。アンサンブルではキーボードや鍵盤打楽器と合唱での大アンサンブルを実施する。グループは歌	X
59	音楽基礎技能Ⅱまでの内容を引き継ぎ、子どものための音楽活動に対する基礎技能を学ぶ。ピアノ実習ではバイエル90番程度までを取り上げ、音楽実習では幼児歌曲の弾き歌いのレパートリーの拡充とコード譜及び移調の弾き歌いの技術の習得を目指し実践力を身につける。	0
60	音楽基礎技能Ⅲまでの内容を引き継ぎ、ピアノ及び弾き歌いにおける子どものための音楽活動に対する基礎技能を学ぶ、各々のレベルに合わせて弾き歌い5曲、ピアノ3曲、コード譜3曲を課題とし、更なる実践力を身につける。	0
61	1. 楽典を理解する 2. 読譜・記譜・聴取の基礎を習得する 3. ピアノ/演奏技術の基礎を習得する 4. 子どもの歌弾き歌い技術の基礎を習得する	X
62	1. 楽典を理解する 2. 読譜・記譜・聴取の基礎を習得する 3. ピアノ/演奏技術の基礎を習得する 4. 子どもの歌の歌唱法、弾き歌い技術を習得する	X
63	1. 保育におけるリズム楽器の奏法と実践方法の習得 2. 子どものリズム活動に活かせるピアノ/奏法とアレンジ方法の習得 3. 子どもの歌唱活動を支える弾き歌い技術習得とレパートリー拡充 4. 音楽でイメージ豊かに表現ができること	0
64	1. 保育におけるリズム楽器の奏法と実践方法の習得 2. 子どものリズム活動に活かせるピアノ/奏法とアレンジ方法の習得 3. 子どもの歌唱活動を支える弾き歌い技術習得とレパートリー拡充 4. 音楽でイメージ豊かに表現ができること	0
65	初心者には基礎的なピアノ/奏法と弾き歌いの技法を習得することができる。そのためには読譜力を身につけ、リズム譜を理解することが基本になる。経験者は各自の進捗に合わせた自由曲と小学校歌唱用教材や幼稚園・保育園で頻りに使用される歌の弾き歌いができる。	0
66	関連するディプロマポリシー教育に関する確かな知識やそれを伝える豊かな表現力を持ち、激しく変化していく社会の教育課題に的確に対応できる高い技術を身につける。学校教育コースでは、小学校教育に即応した学習内容の追究と各教科の指導法を修得し、教科毎に授業が展開できるとともに、個々の発達発達に応じた対応ができる。幼児教育コースでは、保育・教育の理論と実践的な保育技術を修得し、適切な乳幼児理解の下、感受性豊かな好奇心に富んだ子供を育てる保育ができる。	0
67	(1)ピアノ/奏法の基礎及び読譜力を習得する。(2)メロディーを階名・歌詞唱しながら弾くことができる。(3)拍子の四拍子リズムパターン、強弱記号やフレーズ、コードネーム法といった音楽理論など、楽譜と鍵盤の位置関係の理解や弾きやすい運指を学び、表情豊かに演奏することができる (4)童謡・唱歌等の弾き歌い教材を数多く学び、教育及び保育現場等で実践することができる力を養う。	0

68	(1)ピアノ/奏法の基礎技術をより向上させ、表情豊かに弾き歌いができるようになる。(2)歌唱・模唱による復習のための教授力を身につける。(3)詞の内容と音楽の作り、フレーズ、プレス位置、曲の山、ピアノと歌の音量バランスなどに気をつけ、教育及び保育現場等で実践することができる力を養う。	0
69	(1)ピアノ/奏法の基礎及び読譜力を習得し、ピアノ演奏・弾き歌いに必要な楽典の基礎知識を身につけることができる。(2)ピアノ/演奏、また簡単な伴奏でメロディーを階名・歌詞唱しながら弾き歌いすることができる。(3)保育現場などで扱うこどもの歌(季節の歌・生活の歌)を唄うことができる。	0
70	(1)楽譜と鍵盤の位置関係の理解を深め、弾きやすい運指を選択し、短時間で曲を仕上げることができる。(2)リズムパターン・強弱記号やフレーズを学ぶことにより、読譜力を高めることができる。(3)童謡・唱歌等の弾き歌い教材を学び、実践することができる。	X
71	(1)ピアノ/奏法の基礎技術をより向上させ、表情豊かに演奏できる。(2)詞の内容を読み取り、フレーズ、プレス、強弱を意識し、弾き歌いすることができる。(3)保育現場において、こどもに適した音楽を即座に提供することができる。	0
72	(1)ピアノ/奏法の基礎技術をより向上させ、曲に合ったテンポ設定で演奏することができる。(2)詞の内容を読み取り、フレーズ、プレス、強弱を意識し、こどもたちと歌わせることができる。(3)保育現場において、こどもに適切且つ生活に結び付いた音楽を提供することができる。	0
73	①音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的基礎知識を習得する。②音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的応用知識を習得する。③修得した音楽的知識をもとに「子どもたちのための指導」ができるようになる。	0
74	①音楽の基礎となるリズムや拍子の多様なパターンを習得する。②子どもがメロディ音楽に触れ、表現するために必要となる鍵盤楽器の奏法および指導技術を習得する。③子どもがうたを楽しみ、表現を広げる援助につながる伴奏技術を習得する。	0
75	①ピアノの技術向上 ②弾き歌いの技術向上 ③コードネームを使った伴奏法	X
76	①ピアノの技術向上に加え、簡易伴奏法の習得 ②リトミックを使った拍子感の習得 ③楽譜作成の技術習得	X

資料2 評価方法一覧

	評価方法・評価の観点など	明記されている	明記されていない	A:実技テスト	B:筆記テスト	C:その他	AB併用	AC併用	ABC併用	備考	進捗・取り組み評価方法不明																														
1	ピアノ実技試験(50点) 歌い弾き学修シート(24点) 筆記試験(16点) リフレクションカルテ(10点)	○							○	C:学修シート、リフレクションカルテ																															
2	ピアノ実技試験(50点) 歌い弾き学修シート(24点) 筆記試験(16点) リフレクションカルテ(10点)	○							○	C:学修シート、リフレクションカルテ																															
3	ピアノ実技試験(50点) 歌い弾き学修シート(24点) 筆記試験(16点) リフレクションカルテ(10点)	○							○	C:学修シート、リフレクションカルテ																															
4	ピアノ実技試験(50点) 歌い弾き学修シート(24点) 筆記試験(16点) リフレクションカルテ(10点)	○							○	C:学修シート、リフレクションカルテ																															
5	最終発表会での演奏60%、定期試験20%、中間発表会での演奏10%、リフレクションカルテ10%	○							○	C:リフレクションカルテ																															
6	最終発表会での演奏60%、定期試験20%、中間発表会での演奏10%、リフレクションカルテ11%	○							○	C:リフレクションカルテ																															
7	読譜力や音楽の基礎技術を修得できたかを確認するための実技試験を行う	○		○																																					
8	音楽の基礎技術を習得した上で、童謡の弾き歌いを通じ、表現力豊かに演奏できるかを確認するための実技試験を行う	○		○																																					
9	童謡の弾き歌いを通じ、子どもの発達を理解した表現の仕方やリズム・速度などに留意しながら、表現力豊かに演奏できるかを確認するための実技試験を行う	○		○																																					
10	技術力(40%)、表現力(60%)で評価する。		○																																						
11	技術力(40%)、表現力(60%)で評価する。		○																																						
12	授業への参加態度40%・実技試験60%で評価する。全ての教員の採点を平均して評価する	○		○						参加態度の評価方法が不明	○																														
13	定期試験70%、授業への参加姿勢30%で評価する。	○		○						参加姿勢の評価方法が不明	○																														
14	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>合計(点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>確認テスト・課題レポート</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>実技試験</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>-</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します</p>	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	確認テスト・課題レポート	25	10	-	-	35	実技試験	-	10	10	-	20	達成度	-	-	15	-	15	受講態度	-	-	-	30	30	○							○	C:課題レポート 受講態度の評価方法が不明	○
評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)																																				
確認テスト・課題レポート	25	10	-	-	35																																				
実技試験	-	10	10	-	20																																				
達成度	-	-	15	-	15																																				
受講態度	-	-	-	30	30																																				
15	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>合計(点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>確認テスト・課題レポート</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>実技試験</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15</td> <td>-</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します</p>	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	確認テスト・課題レポート	25	10	-	-	35	実技試験	-	10	10	-	20	達成度	-	-	15	-	15	受講態度	-	-	-	30	30	○							○	C:課題レポート 受講態度の評価方法が不明	○
評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)																																				
確認テスト・課題レポート	25	10	-	-	35																																				
実技試験	-	10	10	-	20																																				
達成度	-	-	15	-	15																																				
受講態度	-	-	-	30	30																																				
16	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>合計(点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実技試験・発表</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します</p>	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	実技試験・発表	10	10	10	10	40	達成度	10	10	10	-	30	受講態度	-	10	-	20	30	○							○	C:課題レポート 受講態度の評価方法が不明	○						
評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)																																				
実技試験・発表	10	10	10	10	40																																				
達成度	10	10	10	-	30																																				
受講態度	-	10	-	20	30																																				
17	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>技能</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>合計(点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表・実技試験</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>-</td> <td>10</td> <td>-</td> <td>20</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します</p>	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	発表・実技試験	10	10	10	10	40	達成度	5	5	5	-	15	レポート	5	5	5	-	15	受講態度	-	10	-	20	30	○							○	C:課題レポート 受講態度の評価方法が不明	○
評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)																																				
発表・実技試験	10	10	10	10	40																																				
達成度	5	5	5	-	15																																				
レポート	5	5	5	-	15																																				
受講態度	-	10	-	20	30																																				
18	授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い30%、発表(実技)50%、楽典(筆記テスト)20%	○						○		授業の参加意欲・態度、課題の進行度合いの評価方法が不明	○																														
19	授業の参加意欲・態度、課題の進行度合い40%、発表(実技)60%、	○		○						授業の参加意欲・態度、課題の進行度合いの評価方法が不明	○																														
20	実技試験60%(声楽アンサンブル30%、弾き歌い30%)、平常点40% 平常点は、開講中の学修態度・到達度・出席状況による評価である。	○						○		C:出席状況	○																														
21	ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲・目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。	○						○		学習意欲・目標到達度、積極性の評価方法が不明	○																														
22	ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲・目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。	○						○		学習意欲・目標到達度、積極性の評価方法が不明	○																														
23	音楽理論筆記試験(100点)、ピアノ実技試験(100点)、平常点(100点)の3つの平均点によって評価する。平常点は、学習意欲・目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。音楽理論は筆記試験を基に評価する。なお、筆記試験で90点に満たない場合は再試験を行う。	○						○		学習意欲・目標到達度、積極性の評価方法が不明	○																														
24	音楽理論筆記試験(100点)、ピアノ実技試験(100点)、平常点(100点)の3つの平均点によって評価する。平常点は、学習意欲・目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。音楽理論は筆記試験を基に評価する。なお、筆記試験で91点に満たない場合は再試験を行う。	○						○		学習意欲・目標到達度、積極性の評価方法が不明	○																														
25	試演会評価(100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学習意欲、出席状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。	○							○	C:出席状況、オンライン課題の提出状況	○																														
26	試演会評価(100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を101点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学習意欲、出席状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。	○							○	C:出席状況、オンライン課題の提出状況	○																														
27	授業内でのレポート・課題等 50% その他 50% 実技発表会(50点)、まとめ(20点)、授業への参加姿勢(30点)から評価を行う。	○						○		C:授業内でのレポート・課題、まとめ 参加姿勢の評価方法が不明	○																														
28	授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%	○				○				C:レポート・課題等																															
29	授業内でのレポート・課題等 60% その他 40%	○				○				C:レポート・課題等																															
30	受講状況(25%)、実技試験(50%)、小テスト(25%)	○						○		受講状況の評価方法が不明	○																														
31	受講状況(25%)、実技試験(50%)、小テスト(25%)	○						○		受講状況の評価方法が不明	○																														
32	実技試験(40%)、小テスト(25%)、受講状況(20%)、実技課題(15%)	○						○		受講状況の評価方法が不明	○																														
33	実技試験(40%)、実技小テスト(25%)、受講状況(20%)、実技課題(15%)	○						○		受講状況の評価方法が不明	○																														

学修者の能動性を促す保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業の枠組み

34	平生点(受講態度・自習態度)50% 最終試験 50%	0	0					平生点の評価方法が不明	0	
35	平生点(受講態度・自習態度)50% 最終試験 50%	0	0					平生点の評価方法が不明	0	
36	学生一人一人が自分の目標を持ち、地道に授業外での自学自習を積み重ねることに期待を込めた配点とする	0	0					授業への参加の評価方法が不明	0	
37	授業への参加20%、課題30%、テスト50%により評価する	0	0						0	
38	課題50%、テスト50%により評価する	0	0						0	
39	平常点、取り組み方を総合的に判断する。	0	0					平常点、取り組み方の評価方法が不明	0	
40	授業への取組状況(50%)、実技発表評価(30%)、自主練習の取組(チェックシート)(20%)	0	0			0		Cチェックシート ・授業への取組状況の評価方法が不明	0	
41	授業への取組状況(50%)、1年全期の進捗(30%)、実技発表評価(10%)、自主練習の取組(チェックシート)(10%)	0	0			0		Cチェックシート ・授業への取組状況の評価方法が不明	0	
42	学期中の進捗(80%)、実技発表評価(10%)、自主練習の取組状況(チェックシート)(10%)	0	0			0		Cチェックシート ・学期中の進捗の評価方法が不明	0	
43	学期中の進捗(80%)、実技発表評価(10%)、自主練習の取組状況(チェックシート)(10%)	0	0			0		Cチェックシート ・学期中の進捗の評価方法が不明	0	
44	意欲・受講態度40%、音楽理論30%、歌とピアノの演奏技能30%による総合評価	0	0						0	
45	意欲・受講態度・取り組みの姿勢60%、実技発表40%の総合評価	0	0					意欲・受講態度・取り組みの姿勢の評価方法が不明	0	
46	①声楽(50%)、②楽楽(50%) ※担当教員によっては、レッスンの一端として演奏発表を課す場合もある	0	0						0	
47	①声楽(50%)、②楽楽(50%) ※担当教員によっては、レッスンの一端として演奏発表を課す場合もある	0	0						0	
48	平常点60%、試験内容40% 学修意欲、授業態度を重視する。	0	0					平常点、試験内容の評価方法が不明	0	
49	平常点60%、試験内容41% 学修意欲、授業態度を重視する。	0	0					平常点、試験内容の評価方法が不明	0	
50	学期末に行う実技試験と平常点による総合評価。実技試験40%、平常点60%(授業態度・提出物・個人の到達度等)	0	0			0		C:提出物	0	
51	学期末に行う実技試験と平常点による総合評価。実技試験40%、平常点60%(授業態度・提出物・個人の到達度等)	0	0			0		C:提出物	0	
52	毎回の授業準備、授業態度、練習、目標の達成度、発表発表および授業記録等を総合的に判断する。	0	0			0		C:授業記録	0	
53	毎回の授業準備および課題への取り組み、弾き歌い発表の結果を総合的に判断する。	0	0					授業準備および課題への取り組みに対する評価の観点と評価方法が不明	0	
54	保育現場での音楽的表現指導に必要な、1)ソルフェージュ、発声法の知識と技能、2)ピアノ演奏の技術、の2点で評価する。	0	0					1)2)の評価方法が不明	0	
55	保育現場での歌唱指導に必要な 1)コードに関する知識と弾き歌いの技能 2)ピアノ演奏の技術 の2点で評価する。	0	0					1)2)の評価方法が不明	0	
56	保育現場での歌唱指導に必要な 1)コードに関する知識と伴奏による弾き歌いの技能 2)ピアノ演奏の技術の2点で評価する。	0	0					1)2)の評価方法が不明	0	
57	ピアノ実技、および歌唱での課題への取り組み状況(50%) まとめでの習熟度(50%)	0	0					歌唱での課題への取り組み状況の評価方法が不明	0	
58	ピアノ実技、および歌唱での課題への取り組み状況(50%) まとめでの習熟度(50%)	0	0					歌唱での課題への取り組み状況の評価方法が不明	0	
59	各課題に対する取り組み状況(50%)、まとめでの習熟度(50%)	0	0					課題に対する取り組み状況の評価方法が不明	0	
60	各課題に対する取り組み状況(50%)、該講課題の習熟度(50%)	0	0					課題に対する取り組み状況の評価方法が不明	0	
61	授業(一斉・レッスン)の取り組み(到達目標1, 3, 4) 25%、実技試験(到達目標3, 4) 50%、記述試験(到達目標1, 2) 25%	0	0			0		授業(一斉・レッスン)の取り組みの評価方法が不明	0	
62	授業(一斉・レッスン)の取り組み(到達目標1, 3, 4) 25%、実技試験(到達目標3, 4) 50%、記述試験(到達目標1, 2) 25%	0	0			0		授業(一斉・レッスン)の取り組みの評価方法が不明	0	
63	一斉授業の課題提出(到達目標1) 50%、実技試験(到達目標2, 3) 35%、実技レッスン取り組み(到達目標2, 3) 15%	0	0			0		C課題 ・授業(一斉・レッスン)の取り組みの評価方法が不明	0	
64	授業の取り組み(到達目標1, 2, 3) 50%、実技試験(到達目標1, 2) 40%、課題提出(到達目標2, 3) 16%	0	0			0		C課題 ・授業の取り組みの評価方法が不明	0	
65	初心者は配布した3枚のプリント(楽曲6曲を含む)を全て練習した上で、弾き歌い2曲以上マスターし、弾き歌いの中から各自2曲を選び、実技発表会当日に指定された曲を暗譜で演奏する。既習者は弾き歌い曲を5曲以上、ピアノ独奏曲を1曲以上マスターし、レッスンをした曲の中から各自で弾き歌いの曲を3曲選び、実技発表会当日に指定された曲を暗譜で演奏する	0	0						0	
66	初心者は配布した3枚のプリント(楽曲6曲を含む)を全て練習した上で、弾き歌い2曲以上マスターし、弾き歌いの中から各自2曲を選び、実技発表会当日に指定された曲を暗譜で演奏する。既習者は弾き歌い曲を5曲以上、ピアノ独奏曲を1曲以上マスターし、レッスンをした曲の中から各自で弾き歌いの曲を3曲選び、実技発表会当日に指定された曲を暗譜で演奏する	0	0						0	
67	課題への取り組み 30% 演奏実技発表50% 楽典の理解度 20% 講義の到達目標(1)(2)(3)に対応して、授業内容の理解度及び講義外学習の状況に応じて、評価する。講義の到達目標(3)(4)に対応して、個人別に課題を示す。授業期間中2回実施する演奏実技発表と楽典の理解度チェックで評価する。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
68	課題への取り組み 30% 演奏実技発表50% 楽典の理解度 20% 講義の到達目標(1)(2)(3)に対応して、授業内容の理解度及び講義外学習の状況に応じて、評価する。講義の到達目標(3)(4)に対応して、個人別に課題を示す。授業期間中2回実施する演奏実技発表と楽典の理解度チェックで評価する。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
69	授業への取り組み(25%)、課題(25%)、発表会(25%)、楽典(25%)を総合評価する。・授業への取り組み方をもとに評価する(到達目標1, 2, 3)。・課題は、毎時提示される課題の取り組み方及び到達具合(到達目標1, 2)を評価する。・発表会での表現技術の評価する(到達目標1, 2, 3)。・楽典の理解度を評価する(到達目標2)。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
70	授業への取り組み(25%)、課題(25%)、発表会(25%)、楽典(25%)を総合評価する。・授業への取り組み方をもとに評価する(到達目標1, 2, 3)。・課題は、毎時提示される課題の取り組み方及び到達具合(到達目標1, 2)を評価する。・発表会での表現技術の評価する(到達目標1, 2, 3)。・楽典の理解度を評価する(到達目標3)。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
71	授業への取り組み(20%)、課題(30%)、発表会(50%)を総合評価する。・授業への取り組み方をもとに評価する(到達目標1, 2)。・課題は、毎時提示される課題の取り組み方及び到達具合を評価する(到達目標1, 2)。・発表会での表現技術の評価する(到達目標1, 2)。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
72	授業への取り組み(20%)、課題(30%)、発表会(50%)を総合評価する。・授業への取り組み方をもとに評価する(到達目標1, 2)。・課題は、毎時提示される課題の取り組み方及び到達具合を評価する(到達目標1, 2)。・発表会での表現技術の評価する(到達目標1, 2)。	0	0			0		C課題 ・課題への取り組みの評価方法が不明	0	
73	到達目標①:音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的基礎知識を習得する(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標②:音楽にかかわる活動の基礎となる音楽的応用知識を習得する(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標③:修得した音楽的知識をもとに子どもたちのためになる指導ができるようになる(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢20%)	0	0			0		C課題 ・取り組み姿勢の評価方法が不明	0	
74	到達目標①:音楽の基礎となるリズムや変奏の多様なパターンを習得する(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標②:子どもがロケティ音楽に触れ、表現するために必要となる鍵盤楽器の奏法及び指導技術を習得する(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標③:子どもが歌を楽しみ、表現を広げる円状につながる伴奏技術を習得する(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢21%)	0	0			0		C課題 ・取り組み姿勢の評価方法が不明	0	
75	到達目標①:ピアノの技術向上(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標②:弾き歌いの技術向上(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%) 到達目標③:コードネームを使った伴奏法(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢20%)	0	0			0		C課題 ・取り組み姿勢の評価方法が不明	0	
76	到達目標①:ピアノの技術向上に加え、簡易伴奏法の習得(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標②:リミックスを使った拍子感の習得(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢10%)、到達目標③:楽譜作成の技術習得(課題・提出物10%、発表 10%、取り組み姿勢20%)	0	0			0		C課題 ・取り組み姿勢の評価方法が不明	0	
	数値	64	12	16	0	2	11	23	12	51

資料3 教科書教材一覧

教科書名	編著者・監修者	出版社
うたって、つくって、あそぼう	幼児表現教育研究会	音楽之友社
これなら弾ける!保育の歌ピアノ伴奏160	本間玖美子ほか	ナツメ社
続こどものうた200	小林美実	チャイルド社
簡易伴奏による実用こどものうた改訂版	高崎和子ほか	カワイ出版
幼児のうた130選	繁下和雄	全国社会福祉協議会
現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門	東京福祉保育専門学校編	ドレミ楽譜出版
保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 選べるステップ 第1・2巻	大海由佳ほか	GAKKEN
幼児の歌 130選	繁下和雄	全国社会福祉協議会
楽しい音楽表現	高御堂愛子ほか	圭文社
こどものうた200	小林美実	チャイルド本社
「弾き歌い」幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集	本廣明美ほか	ドレミ楽譜出版
幼稚園・保育所・家庭で 楽しく歌あそび123	河北邦子	ミネルヴァ書房
保育の四季 歌のカレンダー	伊藤嘉子ほか	株式会社ATM
こどものうた大百科	松山祐士	ドレミ楽譜出版社
うたのファンタジー	木許 隆	圭文社
いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100	小林美実ほか	チャイルド社
幼児のうたとあそび	桐生敦子ほか	みらい
こどものうた[簡易伴奏曲付]	田中常雄	圭文社
簡易ピアノ伴奏による 実用版 ようちえんほいくえんのうた大集合決定版	デプロMP	DEPRO MP
楽しい音楽表現	木許 隆ほか	圭文社
ポケットいっぱいのおうた 実践 こどものうた 簡単に弾ける144選	鈴木恵津子・富田英也	教育芸術社
保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた150曲	阿部直美	日本文芸社
簡易伴奏による こどもの歌ベストテン	板東貴余子	ドレミ楽譜出版社
標準バイエルピアノ教則本(併用曲付)	全音楽譜出版社出版部	全音楽譜出版社
ブルグミュラー25の練習曲	全音楽譜出版社出版部	全音楽譜出版社
ソナチネアルバムⅠ	全音楽譜出版社出版部	全音楽譜出版社
ピアノキャンパス	小川宜子ほか	ドレミ楽譜出版社
この一冊でわかるピアノ実技と楽典	深見友紀子ほか	音楽之友社
現場で役立つ幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門	東京福祉保育専門学校編	ドレミ楽譜出版
標準版ピアノ楽譜 バイエルピアノ教則本 「やさしい楽典」付 New Edition	伊藤康英	音楽之友社
左手のための実用伴奏法～ハンドフォームとポジション奏法による	甲斐 彰	音楽之友社
Let's play the BEYER	荒井 弘高	圭文社
歌唱教材伴奏法バイエルとツェルニーによる	大学音楽教育研究グループ	教育芸術社
ピアノへのアプローチ4Steps	伊藤嘉子ほか	音楽之友社
ピアノ・カラフルセレクション	岡田暁子	共同音楽出版社
全訳ハノンピアノ教本	全音楽譜出版社出版部	全音楽譜出版社
初級ピアノ・テクニック速習ステップス	木許 隆ほか	音楽之友社
大学ピアノ教本	教芸音楽研究グループ	教育芸術社
保育者のための楽典と和声 音楽の約束ごと	辻本健市	サーベル社
おんがくのしぐみ	今川恭子ほか	教育芸術社
この一冊でわかるピアノ実技と楽典	深見友紀子ほか	音楽之友社
音楽通論	教芸音楽研究グループ	教育芸術社
保育の現場で聴かせたい ピアノ名曲で子どもと遊ぼう	本廣明美ほか	ドレミ楽譜出版
保育用ピアノマーチ集	一宮道子	全音楽譜出版社
コールユーブンゲン(全訳)	フランツ ヴェルナー	大阪開成館
音楽の基礎	木許 隆ほか	圭文社
音楽テキスト ー音楽表現技術・子どもと音楽ー	高田短期大学音楽研究室	高田短期大学音楽研究室
保育・幼児教育のためのMusic Text	高田短期大学音楽研究室	高田短期大学音楽研究室

学修者の能動性を促す保育者養成教育としての対話ベースの音楽授業の枠組み

資料4 教科書の使用形態

	A 単独	B 単独	AB 併用	AD 併用	BC 併用	ABC併 用	ABD併 用	表記 なし
1			○					
2			○					
3			○					
4			○					
5			○					
6			○					
7	○							
8		○						
9		○						
10				○				
11				○				
12								○
13								○
14					○			
15					○			
16	○							
17	○							
18							○	
19	○							
20	○							
21						○		
22						○		
23					○			
24						○		
25								○
26								○
27								○
28	○							
29						○		
30							○	
31							○	
32							○	
33							○	
34		○						
35	○							
36			○					
37			○					
38		○						
39							○	
40							○	
41			○					
42	○							
43						○		
44						○		
45				○				
46			○					
47			○					
48		○						
49		○						
50			○					
51			○					
52								○
53								○
54					○			
55				○				
56	○							
57							○	
58							○	
59			○					
60			○					
61				○				
62				○				
63				○				
64				○				
65	○							
66	○							
67			○					
68			○					
69			○					
70			○					
71			○					
72			○					
73	○							
74	○							
75	○							
76				○				
計	14	6	21	9	4	6	9	7